

Rotary



人類に
奉仕する
ロータリー

2016~2017 年度

国際ロータリーテーマ

人類に奉仕するロータリー

国際ロータリー会長 ジョン F. ジャーム

第 2790 地区ガバナー 青 木 貞 雄

第 6 分区ガバナー補佐 河 野 知 宏

東金ロータリークラブ会長 小 林 信 雄

〃 幹事 秋 葉 芳 秀

〃 広報委員長 長 尾 邦 俊

東金ロータリークラブ 概要

Togane RC Information

創 立 1959 年 9 月 15 日

R I 承認 1959 年 10 月 17 日

例会日 火曜日 12:30~13:30

例会場 東金商工会館 4 階

Makeup fee ¥2,000

WEB <http://www.togane-rc.jp/>

事務所 〒283-0068

千葉県東金市東岩崎 1-5

東金商工会議所内

TEL 0475-52-1101(代)

FAX 050-3730-2559

E-mail info@togane-rc.jp

第 58 巻第 17 号 通巻第 2750 号

第 2763 回 新年合同例会

2017 年 (平成 29 年) 1 月 10 日

18:00 点鐘 八鶴亭

Program

開会宣言・点鐘 小林 信雄 会長

国歌斉唱 「君が代」

歌 「我等の生業」

四つのテスト唱和 秋葉 芳秀 幹事

東金 R C

会長挨拶 小林 信雄 会長

幹事報告 秋葉 芳秀 幹事

東金ビュー R C

会長挨拶 野嶋 千秋 会長

幹事報告 宮原 政志 幹事

次年度会長幹事紹介

上映会

委員会報告

閉会宣言・点鐘 小林 信雄 会長

懇親会 八鶴亭

開会・乾杯

ニコニコ B O X 発表

出席報告

閉会



第 2762 回 例会の記録<12 月 20 日>

お客様紹介



白鳥 政孝 様 (パストガバナー)



大網 R C 四之宮由己様



東金ビュー R C 小林秀二様



茂原 R C 金坂一郎様



東金ビュー R C 市東弥寿雄様

会長挨拶



小林 信雄 会長

皆さんこんにちは。寒くなりました。皆さんの
お宅には今年もサンタのおじいさんがやって
きますでしょうか。間もなくクリスマスやお正
月がやってきますが、多忙な日々、お体には十
分ご留意ください。

さて、本日は、地区研修リーダー、パストガ
バナーの白鳥政孝様をお迎えすることが出来ま
した。白鳥先生にはご多忙中のところわざわざ
東金までお越し頂き、誠にありがとうございます。
後ほど宜しくお願い申し上げます。

さて、私達東金ロータリークラブも前回申し
上げましたように、当座しのぎの単なる奉仕活
動や、親睦を表明することではなく、真のロー
タリークラブとして、その思想や原理が問われ
るようになってまいりました。これは差し迫っ
ておりますので、強調しておきたいと思います。

確かに、ロータリーを構成するうえでカギと
なるのは普遍的価値との距離感だろうと思いま
す。単なる奉仕プロジェクト論あるいは単なる
親睦を前景出して考えるのではなく、真のロー
タリーが職業生活や人権や平和というような規
範に則って、ロータリーメンバーの質と量、白
鳥先生からこういったお話を伺えると思います
が、今一度進路を見定めることが出来るだろう

か。まさに正念場に差し掛かってまいりました。
よろしくお願いいたします。

幹事報告



秋葉 芳秀 幹事

- 1月10日に東金ビューRCとの合同新年例会があります。その席で、宮原幹事のご尽力で日吉神社の絵馬をプロジェクターで上映していただきます。ご期待ください
- 1月24日に古川会員のところに職場訪問をいたします
- 1月31日は地区職業奉仕委員の方をお招きし、地区の職業奉仕関係のお話をお聞きします

卓話

「ロータリーの差別化を考える」



白鳥 政孝 様 (パストガバナー)

ロータリーの危機

最もホットな現況をお伝えします。11月30日、12月1日にロータリー研究会があり、全国からのロータリアンが600人ほど集まり、会長も来しました。これからのロータリーについて議論をしました。一言でいうと現在のロータリーは危機です。日本のロータリーは団塊の世代が今69歳ですね。69歳から3年くらいは団塊の世代の方が非常に多い。ロータリーもそうです。そういう方々が、2年3年たつとどうなるか。

そして若い人たちが入らない。これは世界の先進国でも傾向があるそうです。今、勢いがあるのは日本以外のアジア諸国、アフリカなどの後進国です。若い人たちがどんどん入り、どんどんやめていく、そういう状況です。世界全体では大体120万人、日本では大体8万5,6千人で推移しています。ただ、このままずっと行くかはわからないわけです。

ロータリーの敷居が低くなった

日本のロータリー研究会で話題になったのは、4月の規定審議会でのいくつかの変更です。規定が非常に柔軟性をもった一たとえば、職場の代表者でなくても会員になれるなど一別の言い方をすると敷居の低いロータリーになってきたわけです。これを活用しないと、ロータリーはやがて消滅していくだろうということです。活用するということは、一言で言うと若い人が入りやすいようにする。それには、日本のロータリーは年会費が高いというのが第一の問題です。

それから昼間の例会、これは世界では特異な感じですね。これは過去をさかのぼると米山梅

吉さんがロータリーを創設した時に東京の錚々たる会社の社長さんがチャーターメンバーで、英語を話さなくてはならない、事務局を置いてホテルで豪華なランチをとる。始まったときがそうだったものですから、各地方にロータリークラブができた時に皆さんがそれをまねたんです。世界でも高い年会費のロータリー、しかもお昼にやる。これが日本の特徴になっています。海外ではほとんどが夕方や朝にやる。

年会費は日本円に換算しますと 10 万円とか、安いところだと 5~6 万円のところもあります。それには事情がありまして、クラブの運営費だけを会費から出して、後の食費などは別に徴収する。そういうことも含めて、年会費はだいたい 12,3 万円 (月 1 万円)。これが一つの目安だそうです。日本のロータリーは年会費が 24~30 万円、諸経費を入れると一人当たり 40 万~50 万かかると言われている。これで若い人が入れるだろうか、ということです。若い人を入れていくには、まず年会費を安くしなければならない。

それから、昼間の例会を朝あるいは夜の例会にしていかななくてはならない。例会の回数も、毎週やらなくてもいいということですね。今度の規則では月に 2 回以上ということになっています。2 回にすることで年会費もウンと安くなります。そういう傾向がどんどん出てくると。



変化への対応

これに対する賛成意見や反対意見が場内からどんどん出てきました。そして、若い方々や女性の方を会員に入れるには、そういうことを考えていかなくてはロータリーの存続は危ういという。それが結論になってます。特に問題になるのは、例会を月に 2 回にしようとすると、年輩のロータリアンから猛烈な反対を食うわけですね。だけど、それでもいいじゃないかと。



ただし、条件があるわけですね。ロータリー精神を失ってはいけない、それが条件だと。それでは、そのロータリー精神とは何か、これでまた議論になります。ですから、今年の名古屋でのロータリー研究会は議論が伯仲しました。来年 2 月ぐらいには報告書が出ると思います。皆さん、是非見たほうがいいと思います。手に入らないようでしたらどこかでご用意できますので、教えてください。

ポール・ハリスが「世の中が変わっていくのなら、ロータリーも変わっていかなければならない」と言っていましたが、私はそのことを研究会でまざまざと感じました。時代とともに変わらなければならない。しかし、変わってはならないものもあります。他の団体とは異なるロ

ロータリーの理念や思想や哲学が討議されないで
いれば、ロータリーが消えて行ってしまいます。

哲 学 の 実 践

1923年にロータリーの国際大会の時に提案された「今までの理念・思想を学ぶよりは実践していかななくてはならない」。これについてそれまで実践派と理論派の対立が激しかったんですが、アメリカのナッシュビルRCが世界大会で提案したもので結論が出されました。「ロータリーの思想・哲学は一種の人生哲学である。その人生哲学は実践しなければならない」ということで和解しました。ロータリーソングの「手に手つないで」。あまりにもすさんだロータリークラブであってはいけないということで、歌が生まれたんです。

日本のロータリークラブはどうでしょうか。東京一極集中化、地方経済は疲弊しています。若い人たちが少なくなっている。どこの日本の団体でも少子化・高齢化していく。活気がなくなるわけです。これからのロータリーはどうしたらいいだろうか。世の中の変わっていくのを「仕方がない」と横目で見ているのか、対策を練っていくのか。

シカゴ魂—I will—と言うのがあります。「やるぞ」と言う言葉です。シカゴのロータリークラブも決して平たんな道のりではなかったんです。そのときにシカゴ魂を出して、正面からぶち当たっていった。ロータリーは何かを考えて、何かに挑戦していくわけです。

親睦の中から 人格を磨く

われわれは何をしなければならないか。これは私の考え方ですが、ロータリーの「人のためになる」という思想・哲学、そしてロータリーの中で勉強していく、人格を磨いていくのだという。その中に親睦があるのだと。親睦の中から、自分の人格を磨いていくということをやっていかなければ、他の団体と全く変わらないロータリーになっちゃう。

ちょうど皆さんがいろいろな仕事をされています。その時に他の会社との差別化を図るということ考えた事がないでしょうか。迅速、品ぞろえがいい、感じがいい等、差別化を図る。これがちょうどロータリーにも当てはまるんです。ロータリーにはどんな特徴があるか。一言でいうと、私は心の持ち方だと思うんです。



ロータリーでは心を磨く。その磨いたものが家族や職場に反映していきます。社員が「うちの社長は、何か変わってきた」「自分の話をよく

聞いてくれる」「やさしくなった」そういう影響が会社にも必ず起きてきます。これが、ロータリーの贈り物だと思います。

それをやらずして例会だけやって、はいさようなら。あるいはたまに忘年会やゴルフをやる。それだけではなくて、そこにプラスアルファを加えていく。そのプラスアルファが、やがて世の中のためになるし、ロータリアンご自身のためにもなるということです。



切磋琢磨

皆さんの会社にも社訓などがあると思います。ロータリーの場合は、「自分のことよりもまず人のことを考えよう」です。「最も奉仕する者 最も多く報われる」こういう言葉は自分の会社にも適用されますね。

4つのテストを自分に課して、従業員にも進めていきますと、社員の見る目が違ってくると思います。会社の経営にも大いに発展します。ロータリアンはふんぞり返って偉い人ではない。みんな対等、同じ立場の人たち。ということは、お互いを尊敬しています。

人と話す時にその人を尊敬してお話をさせていただきますと、自分にはない考えがどんどん出てくる。それが自分のためになるわけです。これが「対話」で、どんどん昇華していきますと

お互いに吸収しあう。ロータリーではこれを切磋琢磨と言うんです。そういうことがクラブの中で出来ます。

ただ、できない場合もあります。相手に、ロータリーの思想を学んでみようという気がない場合はなかなか通じません。お互いが向上心を燃やす。ロータリーについてもっと良く知ろう、と思うと、コミュニケーションができるわけです。

ロータリーの教育機能

私はロータリアンになって 37 年になりますが、初めのうちはそんなことを少しも思いませんでした。ロータリーの職業奉仕ってなんだろう、わからなかった。活動をしたり先輩ロータリアンの話を聴いたりしているうちにだんだんわかってくるんですね。ロータリーの教育機能と言うんでしょうか。ロータリーの教育機能は、いたるところにあります。この教育機能を自分のものにするのはその個々人の心次第です。

「110 年も続いて、世界に 120 万人もの仲間がいる。ロータリーってなんなんだろう」と、なぜなぜを繰り返していきますと、興味がわいてくるのではないかと思います。

そのロータリーの教育機能を、若い人たちとも分けあう。上から与えるのではなくて、若い人たちと対話をして教えてもらうことは多いです。「若い人から教えてもらうんだ」という気持ちを持ちますと、若い人が年寄りからも学ぼうとする。相乗効果が出ます。そうすると、ロータリーから若い人が育ってくる。そうすると、他の団体と大きく違ってくる。大変でしょうけれども、これからはそういうこともやっていく。若い人やご婦人に入ってもらって、そういう人

を通じて自分の知らない世界を知っていく。あるいは、自分が経験した世界を新しい方にも伝えていこうと。これが親睦ですね。



対 等 に 話 し 合 う

今度の規定審議会でロータリーは柔軟になった。敷居が低くなった。ですから、この際若い人たちにどんどん入ってもらおう。そして教育機能を使って若い人たちにロータリーの思想を理解してもらおう。その第一歩として、月4回例会をすることを考え直していかなくてはいけない。月2回以上しなくてはなりません、柔軟性をもって経営をしていかなくてはいけないんじゃないかと思えます。

柔軟性をもつことには皆さん非常に抵抗があると思います。変化を求めると、私のような年輩が猛烈な抵抗を示すんですね。しかし根っこにお互いが親睦の心を持っていれば、やがては理解してくれる。お互いに話し合ひましょうということになるんですね。そうすると、自分の自我をかなり抑える必要があります。抑制しなければいけない。セルフコントロール。これが今のロータリーには、非常に欠けていると思います。

ですから、今、我々が一番注意しなければいけないことは、どうやってロータリーの心を自分のところに取り入れるか、クラブの人たちとどう分かち合うか。ロータリーの理念とか難しいことは置いておいて、もっと心に訴えるものをお互いに話し合おうじゃないか、ということです。

それには、くどいようですが、クラブの会員がお互いに尊敬し合わなきゃいけない。新しい会員も、古い会員も対等です。そういう態度で話し合わなければいけないということです。

質疑応答



質問：若手のロータリアンと先輩とがわかり合える手法は？先輩が言われることの方が強くなってしまいます。若手の気持ちをどうやって伝えたいのでしょうか。

白鳥様：先輩に「それはこうだよ」と一言言われると、若手は言わなくなっちゃうでしょう。先輩のロータリアンが「そうか、そういう考えもあるのか。それでは、こういう考え方はどうだ」という風になればいいんですよ。人間性ですよ。ロータリーでは、偏った人間性にならないようにしているはずなんです、そういう思想をもう一度クラブの中に呼び戻すことですよ。

若手も、年寄りを敬って「お前はよく話を聴いてくれるが、お前はどうか」と先輩に言われるような関係を作っていくといいなと思います。



質問：当RCでは、例会の回数を規定通りにするようにして、会員の負担を軽減しています。しかし、あまり減らしてしまうと、会員が会える機会がなくなり、

活気がなくなるのではないのでしょうか。例会が楽しみになるようにするにはどうしたらよいのでしょうか。

白鳥様：毎週やるということについてですが、今の若い方々の忙しさは我々の時代の何倍も忙しい。そういう方々のことも考えて、早朝例会や夕方の6時から例会をやるなど考えていくことも大事です。例会を月に2回にすることは、若い方々や主婦の方々にロータリー精神を普及していくためにも良いことです。時の変化とともに変わっていかなければならないということです。

そこに乗っていくには勇気も要りますし、いろいろと考えなくてははいけません。ロータリーの心は失わずに、組織の運営は工夫を凝らして

変えていかなくてはならないと思います。どう変えるのかはクラブの自主性に任されていますが、閉塞感を打開するためには思い切ったことをやっていかないといけないというのも事実です。

もうひとつは、心を具体的に表すためには実践をしなければならない。これをバランスよくやる必要があります。学んでは実践する、実践して学ぶ。これの繰り返しですね。ただ、奉仕活動をやっているよ、ではなくて、奉仕活動しながら学ぶことはたくさんあります。学んだら反省して、次のステップに行く。これが大事です。少子化や高齢化の中でロータリーが生き残れるだろうかと言われますが、私は、若い人たちの賛同を得られるようになれば必ず報われてくると思います。

謝辞



小林 信雄 会長

本日は白鳥政孝様に貴重なご講演を賜り、誠にありがとうございました。今日の時間を経て、私達も一皮むけたロータリアンになったと思います。

また、メイクアップにおいていただいた皆様にも、心より御礼申し上げます。

欠席・Makeupの連絡は、前日までに（緊急の場合は当日10時までに）事務局宛に、電話・FAX・Eメールにてお願いします。メイクアップ先への事前連絡もお忘れなく。

電話 090-7634-7175 / FAX 050-3730-2559
Email: info@togane-rc.jp

出席率 12月20日

会員数	出席率	コインBOX
18名	81.25%	0円